

R7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	ビ・ブライト
サービス種別	施設入所支援
所在地	宇都宮市
開催日時	2025 年 7 月 29 日 (火) 14:30～16:00
出席者 (計 10名)	自治会長 黒須 丈夫 利用者後見人 檜山 光治 利用者代表 入佐 俊昭 業務執行理事 長谷川 友理 ビ・ブライト 管理者 伊藤 高志 サービス管理責任者 大河原 賢祐 看護師 半田 匠 ビ・ブライトNOTE 管理者 保住 智子 書記 青山 明生 進行係 教育部長 砂永 靖
参加者挨拶	地域連携推進会議の参加者各々の自己紹介
事業所紹介	ビ・ブライト サービス管理責任者 大河原より 入所者 30名 短期入所10名前後 職員数 約20名 入所者の特性 自閉症 知的障害
質問	入所者の最高年齢は？ → 77歳の方がいる。 平均年齢は？ → 約50歳 去年の瑞穂野フェスティバルに参加したのか？ → 急遽中止になった。
看護業務について	看護師 半田 より 主には入所者の体調管理をおこなっている 毎朝体温を計っている。 朝昼晩寝る前の服薬を管理している。 行ける方は一緒に通院をしている。 中にはいけない方もいるので、通院を代行している。 かかりつけの病院は 昆野クリニック 皆藤病院 朝日病院 小山富士見台等々
非常時の対策について	教育部長 砂永 より 火災の対策 消防法に基づき火災を知らせる自動火災報知設備、自動で消防に通報する自動通報装置、炎が上がった時に自動で消火するスプリンクラー等の設備が整備されており年2回の専門業者による点検が行われ異常なしを消防署に届けている。 自然災害の対策 施設の東方を流れる鬼怒川も台風の際に氾濫が心配されるが、宇都宮市作成のハザードマップによると鬼怒川氾濫時でも危険な水位には達しない地域となっている、しかしどのような災害が発生するかわからないので自然災害発生時の避難計画は作成している。 さらに行政の指導により災害発生時の業務継続計画を作成しており、いざというときは人の配置、交通手段、食料、衣料品、日用品等を一定期間業務が継続できるよう備えをしている。 コロナ感染症についての対策 感染症発生時の指針の作成、業務継続計画の作成などが義務となっており現在でも万全の対策は維持している。また本年より感染症に対する委員会の設置が義務となり年4回以上の感染症会議の実施や職員の研修や訓練を実施する等、感染症対策には厳しい姿勢で取り組んでいる。
質問	非常時の対応について万が一洪水等でここが水没しそうだった場合どうするのか？ →ビ・ブライトの場合は車いすの利用者もいるので2階を避難所にするつもり。
入居者の権利擁護	ビ・ブライト サービス管理責任者 大河原 より 虐待には5つの虐待があり、(身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト、経済的虐待)5つの虐待を職員がしっかり理解しないといけないと言うことで毎朝朝礼で読み上げて支援にあたっている。先日小山市の方から虐待があったのではないかと連絡があり宇都宮市と合同で調査が行われたが、一切虐待がなく適切な支援であったという結論になった。
今後の地域の連携について	ビ・ブライト管理者 伊藤 より 地域連携推進会議というのは障害のある人もない人も平等に地域と一緒に生活しようというノーマライゼーションを実現するための会議ですので、こちらとしてはこれから施設の中をみてもらって地域でできそうな方がいれば自治会長様にお願ひし、なんでも参加、交流させていきたいと思っている。
見学会実施	本日は議終了後、施設1階の通所施設と2階の入所施設の見学会を実施いたしました。 参加者は、実際に障害者の生活を見るのは初めてのことであり、職員の具体的な生活支援を見ていただくことで、障害者の日常のせいかつについてご理解いただけたと思います。